

地域スポーツとダンス

福島大学 鈴木裕美子

1. はじめに

平成7年に開催された第50回国民体育大会ふくしま国体の開催を機に、また、総合型地域スポーツクラブの育成推進に伴い、福島県内では手軽にスポーツを楽しむ多くのクラブ・サークルが設立された。地域でダンスが親しまれている実態を調査し、より多くの人々にダンスの楽しさが体験できるための方法について追究した。

2. 研究目的

健康づくりや趣味として、ダンス（民踊、健康体操を含む）を体験できるスポーツやダンスのサークルの設立及び運営の可能性について探る。

3. 研究方法

地域で自主的に活動しているスポーツクラブ（解散したサークルも含めて）の設立、内容、ダンスの位置づけ、課題について分析し、ダンスサークルの設立と運営について可能性を追究した。

4. 結果と考察

(1) 発足

- A 発起人の呼びかけで発足
- B 公民館などの講座終了後、自主サークルとして発足
- C 趣味やスポーツの団体の1つの班として発足
- D 全国組織の支部として発足

(2) ダンスの位置づけのタイプ

- A ダンスを主として活動しているサークル
- B 様々なスポーツの一環としてダンスも体験できるサークル
- C スポーツを主とするがダンスも行うサークル

(3) 指導者

- A 講師を依頼
 - ①定期的に契約 ②目的に応じて講師を選ぶ
- B 会員が講師となる
- C 講師はいない

(4) 活動目的

- ①趣味 ②健康づくり ③研修

(5) 活動日

- ①1回/週 ②2回/月
- ③1回/月 ④不規則

5. 各サークルの概要

①Sスポーツクラブ

2006年設立。元気と生きがいと地域活性化を考える総合型地域スポーツクラブ。行政にも働きかけ、スタッフに加わってもらっている。会員は小学生から高齢者まで幅広い年齢層で構成され、ミニバスケットボール、ドッジボール、バレーボール、ゲートボールなど種目も多い。準備・整理運動としてのクラブ体操が作られた。標準と高齢者

用があるが、今後、キッズ用ややさしいバージョンも作られる予定である。体験者は、「できない動きもあるが楽しい」、「からだ伸びて気持ちがいい」、「短時間なのに汗が出る」、「身体が温くなる」などの感想を述べている。

②Na健康推進会

2006年設立。住民の健康推進のために健康体操や運動遊びを研修して、日常的に普及させる活動を行っている。

③Sさわやかシェイプアップクラブ

1985年設立。公民館の健康体操講座終了後、自主サークルとして発足。ふくしま国体の集団演技に出演。定期的に講師を依頼しているが、会員だけでも活動できる。

④M会健康づくりクラブ

1996年設立。ふくしま国体終了後、M会の1つのサークルとして設立。責任者の高齢化でM会は解散したがクラブは継続。

⑤O婦人スポーツ教室

水泳、ヨガ、バスケットボール、テニスなどの班の1つとして体操班があり、新入会員は先ず体操班を経てスポーツの班へ進むことを勧められる。各班合同で教室全体の行事も実施する。

⑥Kふる里民踊協会

日本フォークダンス連盟民踊部資格取得指導者のもとで研究・研修活動を行っている。生涯学習センターや会長自宅などで活動。全国の民踊の取材や研究を行い、全国や地域のイベントにも積極的に参加している。

⑦A会

教員を退職した女性のサークル。各自の専門性を生かして会員が講師となり活動している。

⑧Niスポーツクラブ

平均寿命が短いという汚名を返上するためにケーブルテレビで啓蒙活動を充実させ、講師を依頼して運動の指導を積極的に行った結果、町民の健康状態が改善された。県境に位置するため、地域に講師が育つか、自主活動できることが望まれる。

⑨その他、解散したサークルについても調査した。

6. まとめ

地域住民の熱い願いから発足したサークルや、行政の指導で設立されたサークルなどがあり、ダンスは、活動の目的や、健康づくり・ウォーミングアップやクーリングダウンなどの手段となっている。解散したサークルは、会員の多忙化、責任者や会員の高齢化などがその理由である。

活動の内容は、動きの習熟が主で、創造的な活動としては、講師や主宰者などの専門家に委ねられている。